

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
東海太田川駅周辺地区

平成23年3月

愛知県東海市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる 確定値	計測時期	フォローアップ時 点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られ ない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定 の別	目標達成度	1年以内の 達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	駅周辺のバリアフリー化	m	0	1,114	900	確定	あり	△	900	H22年4月	△	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標達成には至らなかったものの、都市計画道路の整備により駅周辺のバリアフリー化が進展し、一定の効果を示した。しかし、建物移転の遅れにより(都)太田川駅前線の整備が予定どおり進捗せず、交付期間内での整備完了が不可能となったことが、目標未達成の直接的な原因である。また、連続立体交差事業の遅れも、道路整備の進捗に少なからず影響を与えている。
指標2	地区内道路の緑化率	%	40	47	54	確定	あり	○	53	H22年4月	○	緑化の施工予定箇所を区画整理事業の計画図に落とし込み、延長を図上計測したものを使用して見込み値としていたが、太田川駅西歩道・太田川駅前線の緑化が予定通りに進行せず、評価値との差異が生じた。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	太田川駅周辺土地区画整理事業区域内の都市計画道路整備が進捗して地区内道路の緑化率が上昇し、予想以上の効果が得られた。
指標3	浸水被害面積	ha	4.9	1.4	1.6	確定	あり	△	1.6	H22年4月	△	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	予定どおり事業が進捗せず目標達成には至らなかったが、下水道事業の実施により区域内の浸水被害面積が減少し、安全性が向上した。未整備エリアは連続立体交差事業の区域であることから、連続立体交差事業の遅れも少なからず影響を与えている。
指標4	建築物の耐震割合	%	21.5	28.0	37.2	確定	あり	○	38.3	H22年4月	○	H21は、移転予定棟数及び76条申請件数(過去3年の平均値を使用)を除外し、見込み値として算出したが、木造建築物の移転の進捗が計画よりよく、評価値との差異が生じた。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	平成21年度は、土地区画整理事業の移転事業の進捗がよく、76条の申請が当初見込んでいた15件から、26件と大幅に増加し、また移転物件数も全体の46件(内木造38件)となり、結果、木造建築物の移転件数が増加し、太田川駅周辺土地区画整理事業における建築物の耐震割合が大幅に増加した。
指標5	文化・教育施設の利用者数	人	395,000	410,000	429,912	確定	あり	○	429,862	H22年8月	○	H19,H20の両施設の利用者数の傾向から見込み値を推計し、評価値を算出した。図書館については改修後、順調に利用者が増加している。それに対して青少年センターの利用者は一部音楽団体の利用が無くなったことで利用者数が予定どおり伸びず、評価値との差異が生じた。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	施設の改修による利用制限等により、H17時点で一度利用者数は減少したが、その後は施設の利便性向上を受けて利用者数が増加に転じ、目標値を達成した。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる 確定値	計測時期	フォローアップ時 点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見		
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の 達成見込み				理由	改善策の方向性			
その他の 数値指標1	大田まちづくりの会の 開催回数	回	0	/	12	確定	/	/	/	14	H22年4月	/	大田まちづくりの会年間開催スケジュール(予定)を見込み値としていたが、駅舎検討会2回、総会1回、役員会5回、審査会6回と計14回開催となり、開催回数が増えたため、評価値との差異が生じた。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区計画の運用にあたり、自主的な街並みまちの魅力が向上している。
その他の 数値指標2	地区内の歩道設置に関する満足度	%	23.0	/	25.0	確定	/	/	/	24.0	H22年5月	/	アンケート調査であるため、評価値(予測値)と確定値(実績値)に微少の差が生じた。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	評価値を上回る結果となった。地区内の街路樹整備等により、まちの魅力が向上している。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
効果を持続させるために行う方策	都市の安全性の維持・向上	二期計画である「太田川駅周辺地区」では引き続き都市の安全性向上のために、「土地区画整理事業」を平成27年度竣工に向け事業を継続しており、また、「連続立体交差事業」についても平成25年度竣工に向け事業を継続している。	土地区画整理事業等の進捗により、安心・安全なまちづくりが促進され、今後、更なる人口増加が見込まれると思われる。	都市のにぎわいの向上に伴い、都市交通の問題が発生すると思われるので、歩行者にやさしい安全・安心なまちづくりを今後も推進していく。
	交通結節点である中心市街地の機能向上	H22年度末竣工に向け「太田川駅前線」、市内初の公営駐車場である「太田川駅東公共駐車場」を建設中であり、またH24年度に高架下へ駐輪場整備、H25年度に「太田川駅北線」の整備を二期計画である「太田川駅周辺地区」で計画している。 また、東海市内の循環バス路線等の見直しを含む、市内の公共交通の活性化・再生を図るため、H22年2月から「東海市地域公共交通会議」等を行っている。	公営駐車場の「太田川駅東公共駐車場」は、徐々に形となってきており、併せてバス路線の見直しにより、さらなる都市拠点の向上が見込まれる。	関連都市施設の利用者数のさらなる向上に向けたソフト事業の施策が必要である。
	都市拠点における更なる施設の魅力向上	現在建設中の民間再開発ビル(太田川駅東)内に平成23年4月からオープン予定の「市民交流プラザ」の設置を予定しており、貸し会議所や情報・交流コーナー等の設置や、市民活動アドバイザーによる相談も行い、市民の交流拠点として考えている。 また、同フロアに、子育て総合支援センター、結婚応援センターの設置も予定しており、都市拠点の施設の魅力向上となる。	現在、建設中であるので、完成すれば都市拠点において更なる魅力につながり、集客数も増加されると思われる。	関連都市施設がオープン後、利用者の実態を把握し、利用者のニーズに応えるさらなるサービス向上に向けた、ソフト事業の施策の推進をしていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	残された都市基盤整備の推進	引き続き連続立体交差事業の事業進捗と平行し、二期計画である「太田川駅周辺地区」では下水道事業や駅前広場、駅前歩道等の整備の事業を継続している。	太田川駅北線と交差する高架等、連続立体交差事業は徐々に目に見える形となってまちに現れてきており、事業竣工に向けた地元住民の期待が高まってきている。駅前広場等についても同様である。	連続立体交差事業や、駅前広場、駅前歩道等の整備により、人や自転車、自動車、公共交通機関の流れである交通戦略が必要とあり、推進していく。
	新たに市民が感心を寄せている、健康増進等に留意したまちづくりを進める	現在、二期計画である「太田川駅周辺地区」では、通常の道路の緑化事業に加え、駅西歩道の健康器具を設置するなど、健康増進等に留意したまちづくりを進めている。また今後、健康いきいきガイドブックの作成も予定している。	本市が毎年1月に実施している「市民生活の現状についてのアンケート」における、該当区域に居住する住民の「健康であると感じている人の割合」は、平成17年度で23.1%から、27.2%まで上昇した。(面積按分)	また、ガイドブック作成事業の他にも、地元住民が健康増進に関して興味を高められるようなソフト事業の施策が必要である。
	市が策定を進めている「先導的都市環境形成計画」にも留意し、環境に配慮したまちづくりを進める	環境に配慮したまちづくりを目指し、先導的環境形成計画に向けた基本計画の策定を行うことを目的に「先導的都市環境形成計画」を平成20年度に業務委託で検討を行った。	「先導的都市環境形成計画」の策定は断念したが、現在の中心街のまちづくりでは太陽光パネルを設置し、エコなまちづくりを推進している。	「先導的都市環境形成計画」の策定成果を材料の一つとし、引き続き、身の丈にあった、人にもまちにもやさしいエコづくりの推進をしていく。
	中心市街地活性化に向け、都市基盤整備の次の施策としてにぎわい創出に向けた各種施策を進める	当初計画書に記載されていた「再開発研究会」は「市街地再開発準備組合」として現在立ち上げを進めている。 また、太田川駅周辺で予定しているイベントとしては、「まち開きイベント」「いきいき健康ガイドブック」を予定している。現在、駅東の民間主導の開発も着々と進行している。	今後、「市街地再開発準備組合」が立ち上がり再開発施設の建設に向け、更なるまちのにぎわい創出に向け前進が予想される。 また、健康増進事業の実施により元気な都市づくりが期待される。	「市街地再開発準備組合」や「まち開きイベント」などの事業進捗が遅延しないように行政として取り組むべき事業を引き続き支援し促進していく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
<p>浸水被害地域の解消や駅周辺のバリアフリー化については、一部未整備地域を残すこととなったが、本都市再生整備事業の実施により、現在実施中の第二期計画(太田川駅周辺地区)と併せて、基盤整備についてある程度の形が見え始めてきた。</p> <p>そのため、今後は都市の更なる魅力向上のための、ソフト事業(太田まつりや観光マップ、商品開発等の民間主導のにぎわい創出に向けた取り組み)の検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインターイルミネーション事業 ・「地産地消にぎわい市場」事業 ・山車まつり事業 ・観光マップ作成 ・商品開発事業 ・まち開きイベント等 	<p>平成23年度～</p>	<p>まちづくり会社、商工会議所、観光協会との連携強化。</p> <p>なお、まちづくり会社(株式会社まちづくり東海)は平成23年4月に設立予定。</p> <p>まち開きイベントについては平成23年度末を予定。</p>